

農地集積や高収益作物導入等による経営発展の取り組み

～ 農事組合法人 おびファーム(日南市) ～



- ポイント**
- ・園芸を主体とした農家が集まり、稲作、飼料作物栽培の協業化や大型機械等の導入による作業の効率化を図り規模拡大。
 - ・農の雇用事業等を活用した法人の後継者育成と、水田の有効活用や高収益なカボチャ導入による法人経営の強化。

○設立当時(平成17年)の法人概要
経営面積:13ha
構成員:園芸農家4名
作付品目:水稻、飼料稲、飼料作物



○現在(平成29年)の法人概要
経営面積:37ha
構成員:園芸農家4名、社員2名
作付品目:水稻、飼料用米、加工用米、飼料作物、カボチャ

法人経営発展の取り組み

○中間管理機構を通じた規模拡大

- ・中間管理機構を通じ地域の農地7割、約37haを集積。今後も集積を継続。
- ・地域の受け皿として、高齢化等による耕作放棄地の防止。

○水田の有効活用による経営の安定

- ・転作として飼料作物(トウモロコシ等)を作付けし、クラスター事業を活用して最新式の飼料用収穫機導入など、大型農業機械を活用し作業の効率化。
- ・水田の裏作として、省力栽培ができ高収益のカボチャを導入。

○新規就農者の受け入れによる後継者育成

- ・青年就農給付金制度(準備型)により研修生を受入れ、研修終了後、農の雇用事業を活用し正社員として1名雇用。
- ・平成29年に新たに1名雇用しており、併せて法人後継者として期待。

○6次産業化、消費者交流による地域活性化

- ・減農薬野菜を使用して商品化したスムージーを、新たに店舗を開設し販売。
- ・収穫祭や農業体験行事を年間6回程度開催し、消費者との交流を図る。



○不耕作地の防止や地域の活性化への貢献から地域の担い手としての信頼獲得

○今後の展望と課題

- ・社員の年間雇用のため、収益性の高い集約型の作物の導入の検討。
- ・緩効性肥料の使用による追肥の省力化。
- ・集積した水田の畦畔除草の省力化。